

入選 青木 悠嘉 (あおき ゆか) 第七小 4年生

作品名：「忘れても好きだよ おばあちゃん！」を読んで

図 書：忘れても好きだよ おばあちゃん！

あらすじ

わたしのおばあちゃんは、どんなことでもすぐに忘れてしまいます。それは、アルツハイマーという病気だからです。でも、お話をしたり、絵本を読むときは、ぎゅっとだきしめてくれます。そんなおばあちゃんのが大好きなわたしの物語です。

私は、この本を読んでではじめてアルツハイマーという病気を知りました。5分前のことを忘れてしまったり、家族のことも、自分のことも忘れてしまう大変な病気です。おばあちゃんは昔、学校の先生をしていたので、とても頭が良かったんじゃないかなと思います。それなのに、なんでアルツハイマー病にかかってしまったのかわかりません。私は、学校の友達と、楽しく遊んだり、勉強したり、家族で旅行へ行ったり、お母さんとおかし作りをしたり、楽しい思い出がたくさんあります。それを、全部忘れてしまうのは、とても悲しいです。それに、もし私のおばあちゃんが、私のことを忘れてしまったら、すごく悲しいです。私が一番すごいなあと思ったのは、この本のわたしが、おばあちゃんの生まれてから、今までの絵をかいて、大きな木にはるところです。一番下は赤ちゃんのとき、大学に入ったときや、結こん式の絵、この本に出てくるママやわたしが産まれたときの絵。どんどん上にむかってはっていきます。とても大きな木になりました。本の中のママは、「おばあちゃんの頭に秋が来て、この木についている絵は、風にふかれた木の葉みたいに、一枚一枚散ってしまうのよ。」と、言っていました。だから、いろいろな事を忘れてしまうおばあちゃんは、かわいそうです。だけど、家族がやさしくしてあげられたら、おばあちゃんは楽しく生活できると思いました。私の大切な人が病気になってしまったら、その病気のことをたくさんの本で調べて、この本に出てくる家族のように理解してあげたいです。いつも、私のことを大事にしてくれる大好きなおじいちゃんやおばあちゃんがアルツハイマー病にかかってしまったら、私はたくさん絵本を読んであげたいと思います。でも、医学が発達してアルツハイマーの人が、ふつうにくらせるための、薬ができれば一番いいと思います。